

研修企画書

テーマ：脳卒中連携施設の医療・介護職員の施設見学について

学習者の実態把握	脳卒中の患者は、急性期病院に入院した後、回復期医療機関や介護保険施設へ転院し、継続してADLの援助やケアを必要となる場合が多い。 地域完結型の脳卒中医療を推進していくために、急性期・回復期・維持期の職員は、所属施設以外での患者の対応状況や経過を把握する機会が少なく、社会復帰、自宅復帰を目指す患者の全体像が見えることが重要である
把握から得られた研修の必要性	脳卒中の看護や介護を行う医療機関や介護施設職員が、急性期・回復期・維持期の患者の管理や治療・看護・訓練・介護の実態を見て、自施設での医療・介護に継続できる方法を習得して貰う。 また、見学することによって自施設の改善すべき点に気付き、今後活かせることを学び、更に地域の関連部署への発信や協業を目指す。
研修後の学習者像(理想像)	① 急性期・回復期・維持期の患者の管理や治療・看護・訓練・介護の実際を学ぶことにより、自医療機関や自施設・在宅で脳卒中患者の対応改善に生かすことができる。 ② 脳卒中地域連携計画病院である当院や連携機関である回復期・維持期の介護保険施設・在宅患者の通所利用状況などを見学することで、学びの機会とする。
研修目的	① 急性期病棟における管理や看護の実際を知ることができる。 ② 回復期病院での管理・訓練・社会復帰に向けての支援の方法を学ぶ ③ 施設・在宅介護を見学して、急性期・回復期のスタッフが患者のゴールを見据えた看護・訓練・退院調整などが出来るようになる。 ④ 地域の関連部署への発信や協業を目指す。
研修内容	① 看護師・介護・療法士などの職員が、急性期・回復期・維持期の管理や看護・訓練・介護の実際の見学 ・チーム医療の実際(カンファレンスなどで、目標の設定・評価) ・急性期・回復期・維持期それぞれの施設における安全な環境の提供(転倒・転落・離院等の予防策、感染や食事・服薬管理等) ・それぞれの施設における日常生活援助の見学 ・家族との連携・退院調整などの手法を学ぶ
研修方法	① 各施設での見学(部署の責任者による説明、スタッフの援助の場面の見学) ② ランチョンミーティングやその都度の意見交換
成果の評価	1日目(急性期施設で、ランチョンミーティングをしながら、質疑応答を行い、問題点の解決を図る) 2日目(研修修了時、まとめのミーティングを行い、問題点の解決を図る)
備考	① 年度初めに、1年間の予定を実行委員会で計画する (急性期を第3木曜日、回復期・維持期第3金曜日) ② 参加者の把握は、 <u>研修前の月の第3週の木曜日</u> 。 ③ 参加者数は、受け入れ施設と相談しながら、限界まで受け入れる ④ 参加職員は、他職種になってもよい